すべての原発いますぐなくそう！全国会議

NAZEN通信

第150号
2025.10.11発行
カンパ50円

発行：NAZEN 事務局
東京都杉並区上荻 1-24-17 丸華ビル 3F
nazen.info@gmail.com

戦争と差別・排外主義と闘おう
極右政権打倒　11•2 芝公園へ

パレスチナの 10•7 蜂起から２年、世界中でパレスチナ連帯デモが闘われました。イタリアでは労働組合がゼネストに立ち、ドイツでは歴史的なユダヤ人虐殺への反省＝イスラエル支援を超えて 10 万人のデモ。他方でアメリカでは、トランプの軍隊を使った移民排斥に自治体や先生などの労働組合が実力で立ち上がり、トランプ政権をして「本土防衛」が問題になるほどの内乱的な闘いに発展している。日本でも渋谷デモやイスラエル大使館抗議が闘われた。戦争阻止、極右政党反対、外国人労働者排斥反対が労働組合の歴史的な闘いとなっています。

参院選での「違法外国人対策」という排外主義、法務省は「ゼロ・プラン」として滞日外国人に対する免許停止など人権侵害を次々と開始しています。絶対に許せません。

そして、安倍政治の継承を堂々と掲げる極右の高市早苗が自民党総裁選を制した。自らのホームページで「その戦争が自衛戦争なのか、いわゆる侵略戦争なのかは、当時の『国家意思』の問題」などと居直り、開戦時の昭和天皇の「帝国は今や、自存自衛のために決然起って、一切の障害を粉砕するのほかなきなり」という勅語を引用して「侵略戦争と総括するには無理がある」などと正当化しているとんでもない極右です。アジアでの日本軍の凄まじい虐殺と植民地支配、最後は１億人が決起したと言われる中国人民の反日闘争に敗北し敗戦を迎えた全てが不正義の侵略戦争でなくてなんなのか？

イタリアではパレスチナ国家の承認を求めて、10月２日に鉄道スト、３日からゼネスト、４日には大規模なデモ

自民党の極右総裁の選択は、日本の政治支配の破綻の現れです。高市自民党は連立の見通しが立たず臨時国会を遅らせるなど最初から危機にある。反戦反核の思いを今こそ行動へ！

《もくじ》

◆ 11•2 労働者集会へ①　「歴史の転換点で闘う」　動労千葉からの呼びかけ　…２ページ
◆ 11•2 労働者集会へ②　外国人排斥許すな　極右政党の台頭と闘おう　…３ページ
◆ 11•2 労働者集会へ③　9•19 控訴審は結審を阻止　闘う労働運動の全国ネットワークを…４ページ
◆「私が受けてきたのは構造的暴力」9•17 甲状腺がん裁判で追加提訴の原告が意見陳述…５ページ
◆織田事務局長のドイツ訪問記②　核廃棄物処分場建設反対運動ゴアレーベンへ　…６ページ
◆原発トピックス　一ヶ月のできごとまとめ　…７ページ
◆ドイツ•ベルリンでパレスチナ連帯 10 万人デモ　＆　スケジュール　…８ページ

歴史の転換点で闘う– 11 月労働者集会への呼びかけ

動労千葉からの 11•2 労働者集会への呼びかけを転載します（事務局）。

●11 月労働者集会 30 年の歩みと国際連帯の前進

私たちが11 月労働者集会を呼びかけたのは1995 年。連合結成に象徴される「日本労働運動の敗北」に抗し、闘う労働者と組合の再結集をめざしたのが出発点です。以来 30 年、仲間たちの支えのもと、毎年継続してきました。変革を求める労働運動と国際連帯の構築は、この集会運動の大きな成果です。戦争が現実の脅威となり、世界中で労働者が闘っています。日本でも闘う労働者の団結した姿を時代の最前線に押し出さなければなりません。

●戦争と国家総動員体制が迫るなかで

今、私たちは歴史的岐路に立っています。トランプ関税とイラン空爆を契機に世界は激変。アメリカ帝国主義は中国との対立を深め、日本は石破政権のもと、中国侵略戦争に向けた体制づくりを進めています。敵基地攻撃能力の保有、核抑止力強化、南西諸島の要塞化など、大軍拡が無抵抗で進行し、連合もそれに加担。社会崩壊と国家総動員が同時進行する情勢です。

●分断を越えた労働者の団結と連帯を

一方、労働者の生活は超低賃金の中で崩壊の危機に直面。国家の「戦力化」政策の一環として、①特定分野への強制的労働移動、②労働基本権の解体、③外国人労働者大量導入、④社会保障制度の解体という労働政策の転換が進行中です。これにより、労働運動の条件も大きく変わろうとしています。私たちは、激しい攻撃にさらされている外国人労働者や女性たちと共に闘います。国家主義や排外主義に対抗できる運動でなければ労働運動が成り立たなくなる時代です。

●11 月集会に向けた４つのスローガン

私たちは、次の４つのスローガンを掲げて11・２全国労働者集会を呼びかけます。

第１に、中国侵略戦争阻止、差別・排外主義と闘う労働運動をつくろう。戦後 80 年を契機に、天皇制による国民統合が進められ、沖縄やヒロシマの闘いが圧殺されようとしています。 在日外国人、女性、「障害者」、部落の仲間たちと共に闘える、社会的連帯の運動が必要です。反戦を労働組合の第一の任務としよう。

第２に、戦時下の労働政策転換に抗う運動をつくろう。「労組なき社会」に向けた労働法制改悪が進められています。それを主導するJR 東日本では、退職金や定期昇給制度の廃止、鉄道の現業部門すべての 外注化が強行されようとしています。こうした攻撃に応じた運動の飛躍が必要です。

第３に、国鉄闘争の地平を活かし、連合路線と対決する労働運動をつくろう。私たちは国鉄分割・民営化に抗し、 団結を守ってきました。1047 名解雇撤回闘争も正念場を迎え、国際的にも信頼される力となっています。

第４に、反動政権を打倒し、闘う労働者の新しい党をつくろう。既存の政党に希望はなく、労働者自身の手で、新たな政治勢力を生み出す時です。団結こそが歴史を切り拓く力です。

私たちは 11 月労働者集会に集う仲間と共に前進し、労働運動を甦らせる決意です。すべての仲間に参加と協力を訴えます。共に歴史を切りひらこう。

「国際的に団結すれば労働者は決して敗けない！」

外国人排斥を許すな！　極右の台頭と対決を！

米日の中国侵略戦争阻止！　米イスラエルによるガザ・ジェノサイドを止めよう！　外国人労働者・難民の強制送還を止めよう！　人種プロファイリング、警察と入管（ICE）による暴力を止めよう！　民営化、労組破壊・非正規化を粉砕しよう！

滞日・在日外国人労働者に向けて５か国語で翻訳されたビラを転載します（事務局）。

◆全国労働者総決起集会で、戦争、排外主義、差別と闘う力を示そう！

全世界の労働者の目前で、パレスチナでの残虐なジェノサイドが展開されている。イランの核施設が爆撃され、日本もこの戦争に加担している。世界戦争への道は既に開かれている。帝国主義諸国では極右政党が台頭している。日本の参院選でも、与党が「外国人取り締り」を掲げ、諸政党が押し並べて外国人排斥の煽動をエスカレートさせた。選挙運動では、1923 年の関東大震災後の朝鮮人・中国人虐殺を示唆する言葉さえ使われた。「中国の脅威」を煽り、中国に対する侵略戦争を構えている。 日本における外国人労働者の労働条件は劣悪だ。労働基本権・人権が事実上否定されている。最近報じられたが、栃木県の農場主が、残業代を支払わず、いわゆる「研修生」の従業員３人にほぼ毎日性的暴行をしたのに、起訴もされず、現在も自由の身だ。改正出入国管理及び難民認定法は、難民申請者、特に繰り返し申請し却下されてきた人々に対し、過酷な強制送還の実施を規定した。しかし、このような戦争、右傾化、そして差別の激化は、帝国主義の衰退の現れだ。私たちは反撃できる。

◆動労千葉の国際連帯

動労千葉は、1965 年の日韓条約反対の闘争以来、日本の侵略、戦争、そして差別排外主義と闘ってきた。1980 年代、日本における最大の組合破壊と大量解雇、国鉄分割・民営化に反対してストライキを敢行し、団結を守り抜いている唯一の労働組合である。動労千葉は、イラク戦争勃発の 2003 年、韓国民主労総ソウル地域本部と共闘関係を確立し、以来、両国で毎年 11 月に開催される集会や個別闘争を通じて連帯してきた。また、米国 ILWU のランク&ファイルや他国の労働組合、そして在日滞日の外国人労働者や難民との連 帯を強化してきた。

◆軍事クーデターを阻止した韓国労働者が11・２集会で発言

昨年 12 月３日、当時の尹錫悦大統領が戒厳令を布告し、軍を動員して野党議員や組合幹部の逮捕を企てたが、韓国労働者は直ちに銃口を向けている軍と対峙し、鉄道労働者を先頭にゼネストに突入し、ついに尹大統領を打倒した。この歴史的闘争の英雄的戦士である KCTU ソウル地域本部の指導者が、今年も主要な演説者の一人として登壇する。

11 月２日の集会に参加し、共に闘おう！力を合わせれば、帝国主義――海外での戦争・国内での階級闘争――を打ち破れる。国際的な連帯を築き、新たな運動を創ろう！

多言語ビラはコチラ→

11•2 労働者集会へ　闘う労働組合の全国ネットワークを

国鉄闘争の勝利へ　9•19 控訴審は結審を阻止

◎裁判所は警備法廷を撤回

　国鉄分割・民営化での不当解雇を問う1047 名解雇撤回の裁判の控訴審が決まり、大法廷使用の要求を無視して東京高裁は警備法廷を指定。持ち物を検査し機動隊を待機させ、反発覚悟の「一発結審」を狙っていました。動労千葉は９月８日に全国から集まった署名 4766 筆とともに、警備法廷撤回を求め要求書を提出。警備法廷をわざわざ指定する理由を問われ「後日回答する」と言わざるをえず、後日大法廷の使用を決定。全国からの署名が国家権力を後退させる力となりました。

　控訴審当日は、国鉄裁判に注目する 240 人が集まり裁判所を包囲するデモを行い法廷へ。大法廷の席数の倍以上の傍聴希望者が抽選に並び、15 時半から緊張の法廷が開かれた。

◎「今日で終わるつもりはない」と裁判長

　裁判では、弁護士の書面読み上げに続いて、解雇当該の中村仁さん（動労千葉副委員長）が意見陳述を行いました。中村さんは定員割れにもかかわらず、「停職６ヶ月もしくは２回」（つまりは労働運動の先頭に立っていた者）という新たな不採用基準の追加によって解雇された当該。「２人に１人が解雇される分割・民営化に対し、労働者としてどうすべきだったのか。動労千葉は２波のストライキに立ち 28 名が解雇された。しかし戦後最大の労働運動解体攻撃を前に労働組合の団結を守り抜いて JR に乗り込むことができた」と堂々と分割・民営化の不正義性、動労千葉のクビをかけた闘いの正義性を訴えました。傍聴から自然と「そうだ！」と声が上がります。

　いつ裁判長が結審を言うか、言ったらすぐにでも裁判長忌避を弁護団が訴えるという緊張感に耐えられなかったのか、裁判長は「今日で終わるつもりはない」と漏らし、結審を阻止した勝利感が法廷に溢れました。

◎「勝利まであと一歩」は国家権力の壁

　裁判後の報告集会は、第一回の裁判で即結審を狙っていた裁判所を全国の署名と当日までの抗議によって後退させ、結審を阻止した勝利感に溢れるものとなりました。「解雇したのは国鉄であり JR に法的責任はない」とする不当判決に対し、不採用基準の策定に JR 設立委員会自らが関わっていた真実を法廷で暴き、不当労働行為を最高裁で認定させるまでに至った。勝利まであと一歩、文字通りあと一歩は国家権力の壁です。労働運動を解体して改憲をやると中曽根首相（当時）が豪語していたように、戦争をする国家と闘い打ち破るべき勝利を何としても勝ち取り、労働運動を再生させるために闘おう。

◎裁判所は深澤、井出を証人に呼べ

　次回の裁判は１月 23 日と決定。今後は地裁でも問題になった証人尋問をめぐる攻防になります。不採用基準を作ったと平然と語る井出正敬・元 JR 西会長、当時実行部隊だった深澤祐二・JR 東会長を法廷に呼べば真実は明らかになります。それを裁判所が頑なに拒んで真実を隠してきたのです。毎回の裁判が大決戦です。次回裁判にも大結集を。

　国鉄闘争を柱とした闘う労働組合の全国ネットワークを！　11・２芝公園に集まろう。

私が受けてきたものは構造的暴力

３１１甲状腺がん裁判　追加提訴した原告が意見陳述

「311 子ども甲状腺がん裁判」の第 15 回口頭弁論が９月 17 日、東京地裁で開かれました。６月に追加提訴したいわき市出身の原告が「私たちの存在はなかったことにされている」と声をつまらせながら訴えました。陳述の一部を紹介します。（事務局）

震災が起きた時、私は小学６年生でした。ランドセルを玄関に放り投げて学校に行き、ブランコに乗っていた時に大きな揺れがきました。原発が爆発したことは、よく覚えていません。ただ一瞬、将来自分ががんになって、病院へ行く想像をしたことは覚えています。「いつかがんになって死ぬかもしれない」１２歳の私は、なんとなくそう受け入れていました。

原発事故後の世の中の急な変化で、感情が麻痺しはじめました。目の前が薄く暗くなり、沼の中を歩いているような苦痛な日々でした。でも毎日学校があって、部活に行き、友達と家に帰る。その繰り返しで、ニュースで語られる「フクシマ」と、自分の生活はかけ離れていました。外国では、「福島には人は住めない」と言われているらしいけれど、私の目の前には震災すら日常になった日々がありました。

●「原発事故とは関係ない」

高校２年生のときに甲状腺がんが見つかって、手術することになりました。「どうしてがんになったのか？」と先生に聞くと、「この大きさになるには 10 年以上かかるから、原発事故の前にできたものではないか」と説明されました。私は、「原発事故と関係ない」という言葉を素直に受け入れました。

医師は私を見て「みんなあなたのようだったらいいのに」と言いました。その当時、「甲状腺がん」という言葉は原発事故と直結していました。私は、この診断を聞いて「普通でいられる人は、ほぼいないのだな」と感じました。検査も手術も異様に軽い雰囲気で進められました。「見つかってラッキーだったね」「せっかくだし（がんを）取ってしまおう」「取ってしまえば大丈夫」周りはそんなノリでした。

●激しい苦痛を強いられた大学時代

手術を終え大学に進学すると、私は激しい精神症状に苦しめられるようになりました。幻聴・幻覚・錯乱状態・発作…。身がちぎれそうな激しい苦痛が９年間も続きました。その時は、なぜそのような症状が出るのかわかっていませんでした。でも、大学卒業後に受診した精神科で「震災の PTSD」と言われました。

震災や原発事故があっても大丈夫だった。がんになっても大丈夫だった。そう言って感情を麻痺させてきたツケを払うかのように、私の心も身体も壊れていきました。裁判のためにカルテを開示すると、１回目の検査の時は、がんどころか、結節もありませんでした。しかし、わずか２年で、１センチのがんができたのです。しかも、リンパ節転移や静脈侵襲がありました。

「事故前からあった」という発言はウソだったのです。この事実を知り、私の精神状態は悪化し、提訴後には勤めていた会社を辞めました。

●「なかったこと」にさせない

私は９年前、手術の前日の夜、暗い部屋で１人、途方もない不安や恐怖を抱えていました。その時、私の頭に浮かんだのは、「武器になる」という言葉でした。

私は当時、「甲状腺がんの子ども」を反原発運動に利用する大人に怒っていました。「大人たちの都合のいい〈かわいそうな子ども〉にはならない」「なにがあっても幸せでいよう」私はそう思ってきました。

でも、不安と恐怖と混乱で、溺れてしまいそうななか、私がたぐり寄せて、つかんだものは「怒り」です。人は尊厳を侵された時、「怒り」が湧くのだということを知りました。それをかすがいに、甲状腺がんへの不安を乗り越えた高校生の時の私とともに、いま私はここに立っています。

でも「大人に利用されたくない」と強く願っていた私は、気づくと「国や東電に都合のいい存在」になっていました。胃がねじきれそうなほど悔しいです。

私が受けてきたものは構造的暴力です。命より国や企業の都合を優先する社会のなかで、私たちの存在は「なかったこと」にされていると気づきました。

●抵抗することを決めた

私たちは、論争の材料でも統計上の数字でもありません。甲状腺がんで身体と人生が傷ついた私たちは、社会から透明にされたまま日々を生きています。私にとって「福島で育つ」ということは「国や社会は守ってくれない」ということを肌で感じることでした。もう十分すぎるほど、あきらめ失望しました。でも、私は抵抗しようと思います。どうか命と人権を守る立場に立った、独立した正当な判決をお願いします。

織田事務局長のドイツ訪問記②

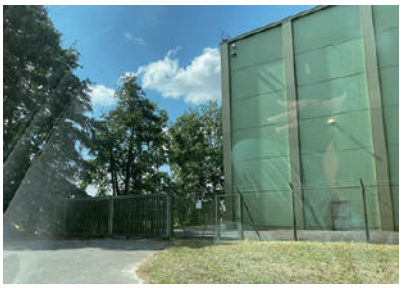
ゴアレーベンでの再会

使用済み核燃料の中間貯蔵施設を建設され、最終処分場建設を阻止する闘いを続けてきたゴアレーベンへ。三里塚闘争のように村ぐるみで立ち上がり、使用済み核燃料を積んだ列車を数万人が線路に座り込んで阻止する有名な闘いです（現在は候補地から外されている）。

リュヒョウ・ダネンベルク環境保護団体で前委員長を勤めたケアスティン・ルーデックさんと再会。ケアスティンさんは、広島や上関、福島など何度も来日して連帯を続けてくれている活動家です。

食卓を囲んでの交流

黄色のバッテンは、核燃料搬入に反対の意思表示。各家に掲げられている。



列車からトラックに核燃料キャスクを積み替える施設。監視カメラがついている。

西ドイツと東ドイツを繋げる鉄道のあった鉄橋。ゴアレーベンは西ドイツから東ドイツにクチバシのように出た地域で、核燃料の事故があっても東ドイツに汚染がいくように場所を政治的に選定された。地質調査などは完全な後付け。

核燃料の運搬を阻止するために線路に座り込む人たち

ケアスティンさんは、現在、アフリカから亡命してくる難民を支援する運動にも関わっており、これは戦地を抜け出し命懸けでヨーロッパに渡ってくる船を、軍隊の攻撃から守る大変な運動です。

車で送ってくれたチャリティコンサートの人たちとともに、食事をしながら再会を喜び合いました。その後のお茶会には、2013 年に訪独した際に会った人たちが集まってくれ、福島の現状などを話し合いました。汚染水はどれくらい出ているのか、それは公表して堂々と流しているのか、といった質問も出ました。核燃サイクルはやはり核武装政策としてあるといった意見も出され、戦争と核の時代において、こうした国際連帯が大きな力となると実感しました。

久しぶりの再会でも、お互いの運動の困難や前進を思い合ってきた、会ったとたんに分かり合えるような、素晴らしい関係性を実感できました。今後も連帯を強化していく方向性を模索していく話もできました。

広島に来たケアスティンさん
（２０１２年）

これまで来日し、連帯してきた方々との交流。すぐにわかりあえる素晴らしい関係性を実感

原発トピックス

25年9月12日～10月11日

大間原発３０年度の運転開始目標厳しい

大間原発の建設を進めている電源開発（Ｊパワー）の倉田一秀大間現地本部長は２０３０年度の運転開始目標について、「全力を尽くして目指すが厳しい」との認識を示した。同氏は「安全対策工事の物量は極めて大きい。プラント審査にも時間が掛かる」とした。プルトニウムを含むＭＯＸ燃料を全炉心で使うフルＭＯＸ計画。Ｊパワーは２４年９月に安全対策工事の６度目の延期を表明しているが、３０年度の運転開始目標は変更していない。（９月１２日　ＡＢＡ青森朝日放送）

東海第二の再稼働へ原電が住民説明会

日本原電は１３日、再稼働を目指す東海第二原発の状況について、東海村で地域住民を対象とした説明会を開いた。原発３０㌔圏内の１４市町村と小美玉市の住民が対象で、１０月１９日まで計１１回開く。初回のこの日は２０人が参加。今回から質問が多い内容を動画にして紹介する取り組みも開始。動画後、住民との質疑は非公開で行われた。説明会後の報道各社の取材では、「規制委で審査中だが、来年１２月完了を目指している」と答えたという。（９月１５日　朝日デジタル）

国会デモの定着は「脱原発」が契機

安全保障関連法が国会で成立する前日の２０１５年９月１８日夜。法案審議をめぐり、国会周辺に約１２万人が集まることもあった。なぜ、大きなうねりとなったのか。１７年、首都圏約８万人のインターネット調査によると、反安保法制デモの参加者のうち４分の３が脱原発デモの経験者だった。脱原発デモは、福島第一原発事故をきっかけに、原発の停止や全廃を求めた運動。毎週金曜日の官邸前デモでは１２年７月には約２０万人が国会周辺に集まった。（９月２１日　朝日）

「復興再生土」との呼称で理解進むのか

環境省は福島第一原発事故で生じた除染廃棄物のうち、公共事業などで再生利用できる土壌の呼称を「復興再生土」に決めた。一般的な除染土壌と区別化を図り、広く利用を促すのが狙いという。改称によって一定のイメージ改善は期待されるが、国民の放射線に対する不安は根強く、安全性や再資源化の必要性などの理解醸成に結び付けられるのか。呼称に付けた「復興」の２文字に違和感を覚える。災害と同じく「復興」と印象付けるのはいかがなものか。（９月２７日　福島民報）

米政権、六ケ所に協力要請の可能性

トランプ米政権が、原発の使用済み核燃料を再利用する「核燃料サイクル」に関心を寄せている。５月に大統領令で米国内でのサイクル事業の「強化」を指示。凍結が続く商業用再処理の再開、ウラン濃縮の能力拡大へ意欲を見せた。原子力の国際市場で米国が競争力を失い、中ロが台頭する現状への危機感がある。再処理・濃縮施設を持つ日本原燃（青森県六ケ所村）に、技術協力を求めてくる可能性が高い。日本政府の対応を検討しておくべき課題だ。（９月２８日　東奥日報）

柏崎調査の中間報告「運転心配」６９％

柏崎刈羽原発の再稼働に関する新潟県の県民意識調査の中間報告で、東電が柏崎刈羽原発を運転するのは心配との回答が「どちらかといえば」を含め全体の６９％を占めたことが分かった。花角英世知事は、再稼働の是非を判断するための材料の一つにこの調査結果を挙げており、対応が注目される。中間報告は県内３０市町村の６千人のうち、有効回答が確認できた３３６０人分を集計した。最終結果は追加分も集計して１０月末ごろにまとまる見込み。（１０月１日　共同）

織田事務局長のドイツ訪問記③

流れが変わった！史上最大のパレスチナ連帯デモ

9月27日、ドイツ・ベルリンでパレスチナ虐殺に抗議するデモに10万人が参加した。「パレスチナ解放を」「食料と水は人権だ」などの横断幕を掲げ、ブランデンブルグ門に集まりデモ。多くの労働組合も参加。

さらに10月7日のデモでは１９３人が拘束されたと報道されている。今やパレスチナ連帯は、世界の労働運動の共通のテーマとなった。

ドイツ国家はユダヤ人虐殺に手を染めたナチスの反省から、ユダヤ人国家建設＝イスラエル支持を国是とし、パレスチナ解放闘争を弾圧してきた歴史があります。パレスチナの旗を出すだけで警察が襲いかかり解散させる状況を、散発的な抗議行動を行うなど、必死にパレスチナ連帯を訴える声で変えてきた。

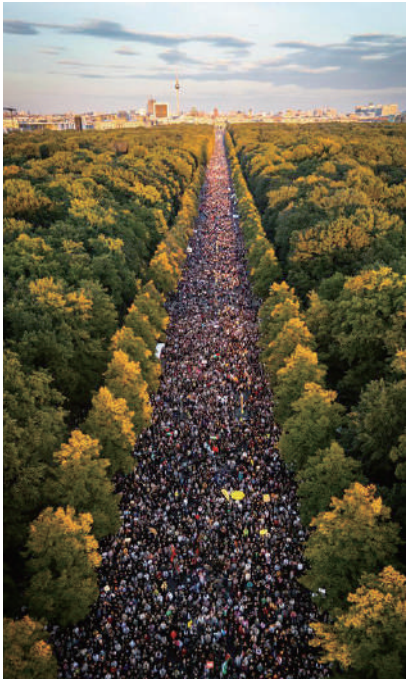
イスラエルによる子ども、女性を狙った虐殺、食料配給所を狙った発砲など凄まじい現実を前に、ついに10万人のデモが実現した。「完全に時代が変わった！」

日本でもこうした時代の転換が必要です。世界の労働者とともに戦争を止めよう。

史上最大規模となる10万人のパレスチナ連帯のデモ。ジェノサイドの終結と武器輸出停止などを求めた（9/27　ベルリン）

ベルリンの国会前でパレスチナ連帯のキャンプを行う人々。上の写真は「武器を送るな」の横断幕。

集会禁止を打ち破って機動隊と対峙するデモ。１９３名が拘束。（10/7　ベルリン）



スケジュール

■１１・２全国労働者集会＆改憲・戦争阻止！１万人大行進

日時：11月2日（日）正午
場所：東京・芝公園２３号地
主催：動労千葉／国鉄闘争全国運動／改憲・戦争阻止！大行進

【関連企画】11.1 労働者国際連帯集会

日時：11月1日（土）13:30～
場所：千葉商工会議所ホール

■トランプ来日 日米首脳会談粉砕！新宿デモ

日時：１０月２７日（月）18：30～
場所：新宿駅東口駅前広場　19：15～デモ
主催：改憲・戦争阻止！大行進

■東海第二原発を今こそ廃炉へ！東海第二原発廃炉デー大集会

日時：１１月２４日（月・祝）13：45～
場所：全電通労働会館・多目的ホール ※終了後デモ
主催：とめよう！東海第二原発首都圏連絡会